

禁煙プログラムの効果と公衆衛生的インパクト

$$(\text{禁煙成功率}) \times (\text{プログラム利用者数}) = (\text{生み出される禁煙者数}) = (\text{公衆衛生的インパクト})$$

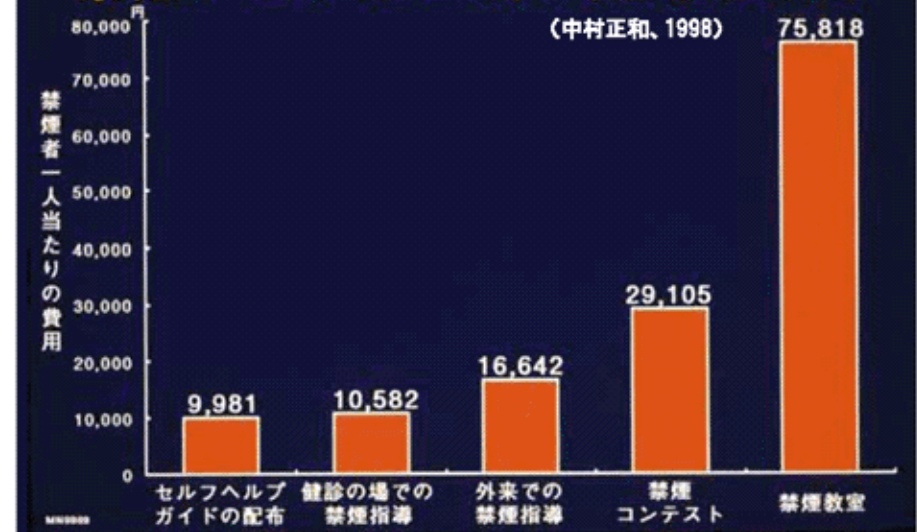
| プログラム内容 | 募集方式 | 禁煙成功率 (効果) | プログラム利用者数 (リーチ) | 生み出される禁煙者数 (公衆衛生的インパクト) |
|------------------------|-------------------|------------|-----------------|-------------------------|
| 禁煙教材の配布や禁煙コンテストなどのイベント | セルフヘルプ法 [募集方式] | + ~ ++ | ++ | + ~ ++ |
| 健診や外来での指導 | 個別サポート [事業組み込み方式] | + | +++ | ++ |
| 禁煙相談や禁煙外来 | 個別サポート [募集方式] | +++ | + | + |
| 禁煙教室 | グループ学習 [募集方式] | +++ | + | + |

© 厚生労働科学・中村班 2002

禁煙プログラムの効果と公衆衛生的インパクト

- 禁煙を強く望む喫煙者に対して濃厚なサポートを行う禁煙教室や禁煙外来は、一般に禁煙成功率が最も高く、次いで、禁煙希望者を対象とする禁煙コンテスト、健診や外来での個別サポート(禁煙希望者だけでなく全ての喫煙者に対して実施した場合)の順となる。
- しかし、公衆衛生の立場から禁煙プログラムを評価する際に問題となるのは、単なるプログラムごとの「禁煙成功率」ではなく、各プログラムを「利用した人数」を禁煙成功率に掛け合わせて得られる「禁煙者数」が問題となる。
- この「禁煙者数」で各プログラムを評価すると、健診や外来での禁煙サポートは、禁煙成功率は高くないものの、社会全体として生み出す禁煙者数が多く、公衆衛生的意義が特に大きいことがわかる。

禁煙プログラム別の費用効果比



© 厚生労働科学・中村班 2002

禁煙プログラム別の費用効果比

- 禁煙者1人当たりを生み出すのに要する費用は、マスコミを通じた禁煙希望者へのセルフヘルプガイドの配布では約1万円、外来や健診の場での個別サポート約1万~2万円、禁煙コンテスト約3万円と、比較的安価であるのに対し、禁煙教室では8万円も費用がかかる計算になる。
- 総合的に判断すると、禁煙教室などの募集方式のプログラムに比べて、既存の事業に組み込んだ禁煙サポートの方が費用効果性に優れていることがわかる。
- 同じ募集方式でも、禁煙教室に比べて、マスコミを通じたガイドの配布や禁煙コンテストのようなセルフヘルプ方式の方が費用効果性に優れている。